

小山市事務事業評価シート

平成30年度版

No. 43

1. 基本情報							
<1> 事業・業務名		公園愛護里親会の拡充			<2> 事業・業務の別		事業
<3> 選定基準		⑤ その他			<4> 継続評価・新規評価の別		継続評価
<5> 総合計画 基本計画 での体系	大項目	8 水と緑に親しむ 自然とふれあうまちづくり			<6> 担当部(局)		都市整備部
	中項目	8-2 やすらぎと潤いのあるまち			<7> 担当所属		水と緑の推進課
	小項目	8-2-1 公園・緑地			<8> 担当係等		緑化推進係
	施策	公園愛護里親会制度の拡充					
<9> 根拠法令・計画等		都市公園法・小山市都市公園条例			<10> 関連・類似事業		
<11> 会計		一般	会計	<12> 予算科目		8 款 4 項 6 目	
<13> 実施期間		年度 ~ 年度		<14> 全体事業費		千円	
<15> 実施手法		直営		「その他」の場合 ()			

2. Do - 実施 -									
<16> 事業・業務の概要		公園の近隣の方々が中心となり、地域の公園としての愛着を持ち、地域で管理できるよう、公園愛護里親会を結成していただく。主に日常の清掃や除草、樹木への水やり、遊具などの公園施設の簡単な点検、公園利用者へのマナー指導などの活動をお願いしている。							
目的	<17> 事業・業務の目的	小山市が管理する公園等について、行政と市民との協働による管理を推進することにより、市民ボランティア活動の活性化・公園愛護精神の普及を図るとともに、安全・安心で快適な公園にするため、公園等愛護里親会の結成を促進する。							
	<18> 事業・業務の対象	公園利用者及び近隣住民							
手段	<19> 平成29年度の活動内容	公園近隣住民に里親会の活動内容や役割について理解してもらえるよう説明し、必要性を理解してもらう。 また、宅地開発による公園の場合は、開発事業者により住民へ公園愛護里親会の制度を周知してもらう。							
	<20> 活動指標 (アウトプット)	指標名	単位	平成28年度		平成29年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
	説明会等実施件数	件	10	9	10	13	130.0%		
成果	<21> 事業・業務の成果	公園愛護里親会が結成されていない公園については、結成してもらう。 また、新規の公園については、開園に合わせて公園愛護里親会を結成してもらう。							
	<22> 成果指標 (アウトカム)	指標名	単位	平成28年度		平成29年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
	公園愛護里親会団体数	箇所	100	100	101	102	101.0%		
コスト ～資源の投入量	<23> 投入指標 (インプット)	区分	単位	平成28年度		平成29年度			
				計画	実績	計画	実績	投入率(%)	
		コスト	千円	4,384	4,272	4,413	4,238	96.0%	
		事業費等	千円	2,219	2,107	2,254	2,079	92.2%	
		財源内訳	国・県補助金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円					
一般財源	千円		2,219	2,107	2,254	2,079	92.2%		
人件費	千円	2,165	2,165	2,159	2,159	100.0%			
正職員	千円 × 人役	7,214 × 0.3	7,214 × 0.3	7,195 × 0.3	7,195 × 0.3				
他の職員		×	×	×	×				

3. Check - 評価 -

実績評価	妥当性	<24> 目的・対象の妥当性	1.妥当である	理由	安全・安心で快適な公園利用のためには、公園愛護里親会による市民協働の公園管理が望ましい。 また、地域住民による公園愛護里親会が身近な公園の管理に関わることで、市民目線の細かな意見を取り入れることが出来るとともに、管理コストの削減が図られる。
	妥当性	<25> 手段や実施手法の妥当性	1.妥当である		
	有効性	<26> 成果の向上余地	2.向上の余地がある	理由	公園の数は毎年増加しており、公園愛護里親会の団体数も、毎年徐々に増えている。しかし、宅地開発により整備される公園については、毎年複数の整備数があるのに対し、公園愛護里親会の設立があまりされず、成果が少ない。そのため、開発事業者とも連携し、開発区域内の住民への公園愛護里親会制度の理解と協力を働きかけていく必要がある。
	効率性	<27> 事業費や人件費の削減余地	1.削減の余地なし	理由	毎年増加する公園数に応じて、公園愛護里親会数も増加させる必要があるため。
	公平性	<28> 受益者負担の適正化余地	1.適正	理由	公園近隣住民による公園愛護里親会と市が一体となった協働での維持管理が必要である。
		<29>総合評価	2.改善の余地がある	理由	安全・安心で快適な公園利用のためには、公園愛護里親会による市民協働の公園管理が望ましいことから、市広報等により公園愛護里親会制度を広く市民に周知し、既存公園の公園愛護里親会の結成促進を行う必要がある。特に、宅地開発により整備される公園については、公園愛護里親会結成数が少ないことから、開発事業者との十分な協力体制を構築していく必要がある。

4. Action - 改善 -

事業の改善	<30> 事業の課題 事業の改善点 今後の進め方等	既存公園への公園愛護里親会結成促進のため、公園愛護里親会制度について広く市民に周知させる必要があることから、市広報、ホームページ等への継続的な掲載が必要である。また、宅地開発による公園については、団体結成数が少ない状況であるが、開発区域への入居時期や地域住民のコミュニケーションの形成が図られるまで時間がかかることから、開発事業者との十分な協力体制を構築し、制度の理解と協力を働きかけていく必要がある。			
事業の方向性	<31> 1次評価	所属長	3.現状維持	理由	街なかにおける公園は、貴重な子どもの遊び場であり、その空間が美しくかつ清潔に管理され、子どもを安心して遊ばせることができることは、そこに住みたくなる大きな魅力の一つとなる。そのために、市と公園愛護里親会との協働による管理を推進し、公園愛護里親会を拡充する必要がある。
	<32> 2次評価	所管部長	3.現状維持	理由	快適に公園を利用できるよう管理を行うには、公園利用者や地域住民からの立場での意見が重要である。そのためには、地域住民が里親として公園愛護活動に積極的に携わる必要がある。また、地域の魅力向上に繋げるためにも、公園愛護里親会の数を増やすことは重要であり、特に、宅地開発による公園における団体結成を積極的に働きかけていく必要がある。

5 Plan - 計画 -

事業の計画	<33>実施計画	公園愛護里親会制度に関する情報を広く市民へPRする。	<35>コスト	区分	単位	平成30年度	平成31年度
						計画	計画
				コスト	千円	4,420	4,455
	<34>活動・成果目標	公園愛護里親会制度を拡充することにより、安全で快適に利用できる公園を増やす。		事業費等	千円	2,261	2,296
				人件費	千円	2,159	2,159